

自転車社会における問題と解決への提案

史 中超 研究室

0931164 萩原 徹

0931200 松井 亮太

1. 研究背景と目的

自転車は我々にとって身近な移動手段であり、子供からお年寄りまで幅広い世代の人々が利用してきた。近年は二酸化炭素排出の観点からエコな移動手段として自転車が注目されている。また、健康志向の増加から、通勤に自転車を利用する人々がニュースでも取り上げられるようになった。しかし、自転車利用者が増加したことで、同時に放置自転車の問題や交通事故の報道も多くなった。実際に交通事故全体の発生における自転車の事故割合は近年増加傾向にある（図1を参照）。



図1 交通事故発生件数推移と自転車事故の割合

出典：警視庁 HP

これらのことを踏まえ、本研究では自転車社会における問題点を検証し、交通ルール・マナーなどの教育や制度、道路整備などの点から解決策を提案する。

2. 自転車社会における問題点

(1) 自転車走行ルール・マナーの認知不足問題

自転車は原則車道走行を始め、左側走行や、歩

道では歩行者優先などのルールがある。しかし、これらのルールが人々に広く認知されていないのが現状である[2]。自転車には免許制度がないため、ルールやマナーを教育する環境が整っていないことが問題だと思われる。自転車が幅広い年齢に利用されていることや、自転車事故が増加していることから対策が必要である。

(2) 駅前での放置自転車問題

都市部においては自転車利用者が多い。しかし、広い駐輪場を設置するスペースがないため、放置自転車が数多く目立つ。また、放置自転車の撤去後の持ち主への返還があまり行われておらず、自転車廃棄の割合が多い。これらのことから、放置自転車は無視できない問題となっている。

(3) 自転車の走行路確保問題

日本の道路は自動車を中心に考えられてつくられてきたことから、自転車に適した道路が少ない。このため、車道を走らない人が多く見かけられる。また、自転車事故で多いのは交差点での出会い頭の事故であることも着目すべき問題点である。

3. 改善策・提案

(1) 自転車走行のルール・マナー認知不足の対策

・安全教育プログラム

ルールやマナーの認知不足の一因として、自転車に関する交通ルールの教育が一部に偏っていることが挙げられる。特に年齢が上がるごとに教育を受けた経験者が少ない。世代ごとに生活スタイルや理解度も異なることから、世代ごとに合わせた教育方法を構築することが必要である。

・取締の強化

(a)罰則制度の改正

現在の自転車違反に対する処罰は刑事手続きによる罰金のみである。その結果、嚴重注意でとどめるケースが多く、取締の効果が低いと考えられる。そこで、この制度に自動車の違反に適用されている交通反則通告制度の導入を提案する。そして、反則金の処罰を与えることを可能にする。この新たな制度を導入することで、罰則に対する意識を高める。同時に、多くの自転車利用者がルールも意識するようになると考えられる。

(b)自転車違反者取締りの警官の配置

白バイのように警官が自転車に乗り取締を行う。これにより、取締の強化や、ルール模範の提示、また、存在そのものが違反の抑止力にもなり得る。

・自転車交通ルールのキャンペーン実施

「自転車の交通ルール・マナーがある」ことや、「違反は法律に反する」ということを、その詳細以前に意識として人々に知ってもらうことを目的とする。例として、駅や公共機関など様々な場所で広告を出す。また、企業とタイアップし、店舗やCMなどのキャンペーンを行う。多くの人の目に触れることで、ルール・マナー認知の第一歩として期待ができる。

(2)放置自転車を減らす対策

・ナンバープレート制の導入

自転車にも自動車やバイクのようにナンバープレートを装着する。これにより、利用者に自転車が車両であることを認識させる。さらに、周囲の目を意識させることで、容易に自転車を放置することを防げられる。また、ナンバープレートによって利用者を特定しやすくなる。これは、ひったくりやひき逃げなどを防ぐ抑止力にもなると思われる。

・都市部での機械式駐輪場の設置

都市部において、機械式駐輪場を設置することを提案する。機械式駐輪場はビルのような建物の地上式と、地下に建設する地下式がある。これらは省スペースでも設置できるため、都市部の駅周辺の狭い用地でも設置しやすい。また、自転車の

保管場所が垂直に設けられるため、収容台数は通常の平置き式駐輪場よりも3倍以上になる。設置することで、多くの自転車を収容することや、駅前の放置自転車を減らすことができると思われる。

(3)安全な自転車走行路の構築

・地域に適した自転車走行路の構築

車道に自転車専用レーンなどを設置することで、自転車利用者の安全を確保する。同時に、歩行者や自動車の運転手にもわかりやすく安全な道路を構築する。場所によって車線や車幅が異なるため、その道路や地域の特徴に合った方法を採用する必要がある。

・一方通行の交差点における車両進行方向の逆側のミラー設置

自転車事故で多い出会い頭の事故を減らす必要がある。そこで、一方通行の車両進行方向の逆側にもミラーを設置することを提案する。大抵の一方通行の道路では、自転車は対象外である。また、一方通行が多い日本の道路は自動車を中心につくられている。このため、一方通行において多くの交差点では、車両進行方向の逆側にはミラーが設置されていない。ミラーによって相手が確認できないことで、結果的に出会い頭の事故を増やしていると思われる。

4. まとめ

東日本大震災以降、自転車の利便性や重要性に注目が集まった。今では自転車は自動車よりも多い台数となった。自転車ブームと言える現在では、自転車社会のあり方について無視できない状況になっている。今後、快適な自転車社会を作り出すには、政府、警察、民間などが協力することが必要である。そして、安全な自転車社会の実現に向けた取り組みを行うことが必要であると思われる。

5. 主要参考文献・参考 URL

[1]自転車交通の総合的な安全性向上策に関する調査

<http://www8.cao.go.jp/koutu/chou-ken/h22/houkoku.html>

[2]交通事故の状況及び交通安全施策の現況

http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h23kou_haku/pdf/gaiyou/topic03.pdf